

神戸市外国語大学・神戸市看護大学の概要



基礎データ



基礎データ

項目	外国語大学	看護大学
法人設置目的 (定款より)	この公立大学法人は、大学を設置し、及び管理することにより、神戸市における外国語及び国際文化に関する実践教育及び理論研究の中心として市民の大学教育に対する要請にこたえ、もって文化及び教育の面で地域の社会及び産業の発展に貢献するとともに、我が国その他世界の高等教育及び学術研究の向上に寄与することを目的とする。	この公立大学法人は、大学を設置し、及び管理することにより、保健医療に関する質の高い教育研究活動に取り組み、その成果を絶えず地域社会に還元すること及び豊かな教養と看護の専門性を備えた実践力のある看護人材を育成することを通じて、学術の発展と市民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。
沿革	1946 神戸市立外事専門学校を設立 1949 神戸市外国語大学が開学 1950 短期大学部を併設 1955 短期大学部を廃止 1967 大学院外国語学研究科を設置 1996 大学院に博士課程を設置 2007 公立大学法人 神戸市外国語大学発足	1959 神戸市立高等看護学院を設立 1981 神戸市立看護短期大学が開学 1996 神戸市看護大学が開学 2000 大学院看護学研究科博士前期課程を設置 2006 大学院看護学研究科博士後期課程を設置 2007 短期大学部を閉学 2019 公立大学法人 神戸市看護大学発足



基礎データ

項目	外国語大学	看護大学
学生数 (2021.5.1時点)	学部 : 2,147名 (725名) 大学院 修士課程 : 106名 (36名) 博士課程 : 39名 (21名) 外国人研究生 : 24名 (8名) 合計 : 2,316名 (790名) ※ () は男性数	学部 : 395名 (25) 大学院 修士課程 : 47名 (6) 博士課程 : 20名 (3) 合計 : 462名 (34名) ※ () は男性数
教員数 (2021.4.1時点)	教授 : 46名 准教授 : 29名 講師 : 2名	教授 : 17名 准教授 : 13名 講師 : 6名 助教 : 20名
職員数 (2021.4.1時点)	固有職員 : 31名 市派遣職員 : 13名 再任用職員 : 6名 契約職員 : 32名 パート職員 : 4名	市派遣職員 : 14名 再任用職員 : 4名 契約職員 : 12名 パート職員 : 8名



基礎データ

項目	外国語大学	看護大学
学部	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語学部 英米学科・ロシア学科・中国学科・ イスパニア学科・国際関係学科 ○外国語学部第2部 英米学科 <p>※2021年度より新たなコース制導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学部 看護学科 <p>※2020年度国家試験合格率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師：98.9%（新卒者全国平均95.4%） ・保健師：100%（新卒者全国平均97.4%）
大学院	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語学研究科 英語学専攻・ロシア語学専攻・ 中国語学専攻・イスパニア語学専攻・ 国際関係学専攻・英語教育学専攻・ 日本アジア言語文化専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学研究科 看護学専攻
2021年度 学部入学 競争率	<p>募集人員：430名 受験者数：1,375名 合格者数：446名 競争率：2.9倍</p>	<p>募集人員：105名 受験者数：278名 合格者数：108名 競争率：2.6倍</p>



基礎データ

	外国語大学	看護大学
財政状況	<ul style="list-style-type: none"> ○経常収益 <ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金収益：1,098百万円 ・学生納付金収益：1,149百万円 ・その他：163百万円 ○経常費用 <ul style="list-style-type: none"> ・業務費：2,124百万円 (うち、人件費：1,740百万円) ・一般管理費：219百万円 ・財務費用：4百万円 	<ul style="list-style-type: none"> ○経常収益 <ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金収益：875百万円 ・授業料等収益：294百万円 ・その他：34百万円 ○経常費用 <ul style="list-style-type: none"> ・業務費：1,043百万円 (うち、人件費：912百万円) ・一般管理費：129百万円 ・財務費用：2百万円
2020年度 学部卒業生 就職希望者 就職率	97% 【主な就職先業界】 メーカー、貿易・商事、金融、運輸・物流、 旅行・サービス、情報・通信、報道・出版、 公務員・政府機関	100% 【主な就職先】 神戸市民病院機構、市内病院、市外病院、地 方公共団体



力を入れている取組と事例（外国語大学）

①グローバルに活躍できる人材の育成

「行動する国際人」を育成するべく、令和3年4月1日に設立した「神戸グローバル教育センター」を運用していくとともに、中国語通訳の人材育成カリキュラムの検討を行う。また、「ANCHOR KOBE」を活用した他大学等との連携のため、具体的な取組を検討・実施していく。さらには、学生の海外留学への意欲を支援するため制度の充実に向けて、検討を進めていく。

②大学ブランドの確立と戦略的な魅力発信

学内の魅力ある情報を集約し、情報発信を行う。対象と内容を明確にした戦略的な広報を行う。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に対応するためオンラインでの高校生向けガイダンスや、オープンキャンパスをウェブで開催するなどの取組を行った。



力を入れている取組と事例（外国語大学）

神戸グローバル教育センター

【設立目的】

少子化や他大学の国際系学部との競合等のなかで、『神戸グローバル教育センター』を設立し、意欲ある高校生の入学の促進、グローバル人材の育成及び大学のブランド向上を図る。

【主な事業内容】

1. 英語模擬国連活動の拠点づくり《2021年春～》
 - ・ 日本大学英語模擬国連大会の主催及び参加を継続
 - ・ 模擬国連世界大会の誘致・開催
 - ・ 模擬国連活動を行っている高校との連携や、高校生向けの研修を実施



力を入れている取組と事例（外国語大学）

【主な事業内容】

2. グローバル人材の育成 《2022年春～》
 - ・ 従来から実施されているNPO活動、国際協力についての科目を体系化
 - ・ これまで教員やゼミ主体で実施されていた活動を集約、情報・支援のハブ化
 - ・ 大学院専門職育成プログラムの検討

3. センター活動の広報の展開 《2021年秋～》
 - ・ 模擬国連参加学生のOB・OG、教職員を含めたネットワークの形成
 - ・ 高校で模擬国連活動やNPO等での活動経験を語る学生の登録バンクを設置



(参考資料)

交換・交流協定締結校 (41校(機関含む)・2020年5月現在)

① 交換留学 ② 協定留学 ③ 短期留学

ドイツ

- デュースブルグ・エッセン大学
- ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン校

英国

- リーズ大学
- ランカスター大学
- ノーサンブリア大学
- ニューカッセル大学
- ヨークセントジョン大学



リーズ大学

スペイン

- アルカラ大学
- オルテガ・イ・ガセット国際教育センター
- サラマンカ大学
- マドリッド自治大学
- サラゴサ大学
- サンティアゴ・デ・コンポステラ大学
- ラ・リオハ大学
- セゴビア市および国立遠隔教育大学
- ナバラ大学(大学院)



ナバラ大学

イタリア

- ローマ大学サピエンツァ

カザフスタン

- カザフ国立大学

ロシア

- モスクワ大学ロシア語ロシア文化学院
- 国立プーシキン記念ロシア語大学
- ウラル連邦大学
- クバン国立大学
- 太平洋国立大学

カナダ

- メディシンハット大学
- レジャイナ大学

米国

- イースタン・ワシントン大学
- オーガスタナ大学
- エルマイラ大学
- オレゴン州立大学
- UCLA エクステンション



オーガスタナ大学

中国

- 天津外国語大学
- 復旦大学
- 北京語言大学
- 華北師範大学
- 上海師範大学



天津外国語大学

オーストリア

- アメリカ・インスティテュート

オーストラリア

- ディーキン大学
- モナッシュ大学(大学院)
- ニューサウスウェールズ大学
- サザンクロス大学



ニューサウスウェールズ大学

メキシコ

- メキシコ国立自治大学

本学で、日本と海外の2つの
大学院学位取得を目指しませんか?

~世界に通用する国際人への道を目指して~
「ダブル・マスタープログラム」(本学大学院修士課程)



メキシコ国立自治大学



ナバラ大学

対象の協定大学: モナッシュ大学(オーストラリア)・ナバラ大学(スペイン)
このプログラムは、本学大学院の修士課程に入学後、1年間を本学大学院で、
1年間を協定大学大学院で学ぶことにより、2年間の課程終了時に本学大学
院と協定大学大学院の2つの修士學位を同時に取得できるものです。

力を入れている取組と事例（看護大学）

①社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成

市内入学者の促進に向けた広報の強化等を図るほか、社会人・留学生受入など入試制度の見直しを行う。また、地域の看護人材の供給に向けて、看護職者の人材育成・定着支援を実施する。さらに、新型コロナウイルス感染症流行の下、オンラインを活用し学生の学修機会を確保するとともに、学生支援基金を活用した経済的支援など学生に対する適切な対応を行う。

②学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による、大学ブランドの確立

地域連携・国際交流・生涯教育に関する「いちかんダイバーシティ看護開発センター」を設置し、事業ごとに横断的なグループを編成、事業を展開する。とりわけ、神戸市と連携し、新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした健康問題対策として、ICTを活用した、市民への「先行的な予防策」、訪問看護等の専門職・事業者への支援等を行う。また、引き続き、神戸市等の新型コロナウイルス感染症対応への支援に取り組む。

力を入れている取組と事例（看護大学）

神戸市看護大学いちかんだ이버シティ看護開発センター構想

【設立目的】

いちかんだ이버シティ看護開発センターは、地域連携、生涯教育、国際交流、及び産官学連携、防災・減災支援を5つの柱として、多様な地域社会の中で、地元創成看護を実装していく。多様化・複雑化する地域社会のニーズの変化に応じて、市民と協働して、地域の健康課題の解決に取り組み、この教育研究成果を絶えず市民に還元し、生活の質の向上に寄与する。

【主な事業内容】

1. 地域連携

- ・ コラボ教育の推進
- ・ 地域住民への健康情報の提供
- ・ 看護専門職等への専門的知識の提供

2. 国際交流

- ・ オンラインを活用した海外の大学等との交流をさらに活性化
- ・ インバウンド留学生受入実現のための体制整備の本格化



センター概念図

力を入れている取組と事例（看護大学）

【主な事業内容】

3. 臨床看護連携
 - ・看護師の生涯教育支援、リカレント教育の充実
4. 災害看護
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた活動体制の整備
 - ・災害後の中・長期的な支援の必要性の根拠となる理論・調査等研究
5. 健康支援
 - ・健康に関するオンライン相談窓口の開設
 - ・慢性疾患患者の重症化予防に向けた「オンライン看護」のモデル構築
6. 在宅ケア支援
 - ・ICTを活用した、専門職・事業者への人材育成支援、円滑な多職種連携モデル、利用者や家族への支援モデル開発
7. 地域保健支援
 - ・地域の健康課題に応じた支援方策についての相談支援及び現場の研究支援
8. 保健師キャリア支援
 - ・兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会、保健師人材育成研修の開催

運営上の課題（外国語大学）

①大学間競争の激化

18歳人口の減少、グローバル化、AI技術の急速な進展等大学を取り巻く環境は大きく変化してきており、受験生獲得に向けた競争が激しさを増している。

②財源の確保

大学の業務運営の効率化を図る観点から、第1期、第2期中期目標期間中は、神戸市から交付される運営費交付金の段階的削減が行われてきた。

第3期中期目標期間の運営費交付金の取扱については、段階的削減ではなく、毎年度神戸市と協議していくこととなっているが、大学としても外部研究資金や寄附金の獲得、施設の外部貸付等による自己収入の増加に努めていく。



運営上の課題（外国語大学）

③施設整備

1984年度に大学施設が竣工して以来30年以上が経っており、施設の老朽化に対応するため、計画的な改修が必要となっている。

2015年度に作成した長期保全計画によると、2017年度から2036年度までの20年間で約55億円の改修費用が必要になると試算されている。



運営上の課題（看護大学）

①大学間競争の激化

少子化により18歳人口が減少傾向にある中、看護系大学、学部、学科の新設、入学定員は増加傾向となっており、大学間における入学者の確保は一段と厳しくなっている。

②財源の確保

神戸市から交付される運営費交付金については市の財政状況が厳しく、また、自己収入である授業料等も収容定員により一定の限度があることから、科学研究費をはじめとする外部資金の獲得や寄附金の獲得に努めるとともに、その他の自己収入の確保の検討を行う。



運営上の課題（看護大学）

③施設整備

開学後25年目が経過し施設・設備等が老朽化していることから、2020年度に保全計画の見直しを行い、2021年度から2030年度までの10年間に約12億円の費用が必要であると算定された。これに基づき、長期保全計画を策定し、費用対効果等を考慮しつつ、計画的な改善及び機能の維持向上を図る必要がある。

